

中種子町文化財資料

2016年3月発行



30. 大平橋

たいへいはし

昭和2年9月6日、西之表と中種子を結ぶ県道工事に伴い、桜島の石工によって架橋された一連アーチ型の石橋。橋長15.6m、橋幅4.8m、拱矢9.4m、径間10.65m。各親柱には、「大平橋」「昭和貳年九月架設」「たいへいはし」「上ヶ尻川」と彫られている。大平橋は、大渡瀬川(上ヶ尻川)と南大渡瀬川(春田川)の合流点に架けられている。

町指定文化財 R2.6.9

21 22

24

4

1

27

19

9

6

20

10

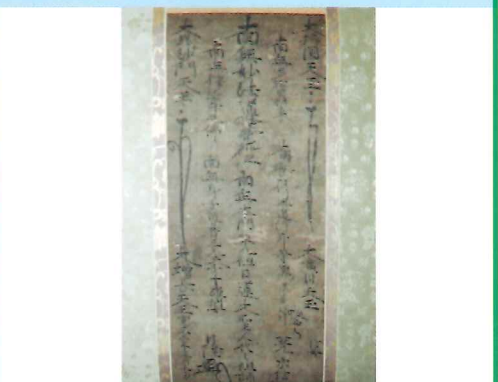
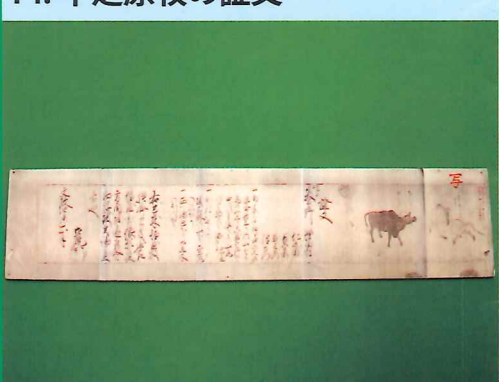
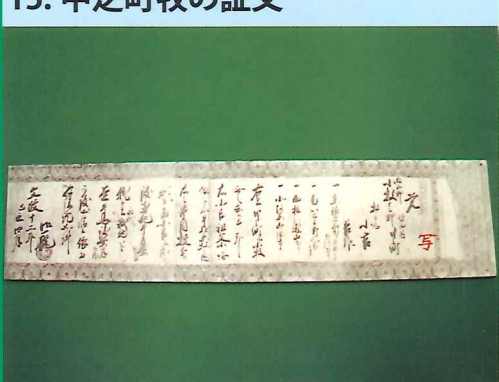
26

16

2

No.	指定文化財名称	区分
①	古市家住宅	国指定
②	種子島阿嶽川のマングロブ林	〃
③	町山崎の源太郎踊り	県指定
④	立切遺跡	〃
⑤	千草原遺跡	町指定
⑥	矢止石	〃
⑦	塩釜跡	〃
⑧	野間焼窯跡	〃
⑨	坂井神社の大ソテツ	〃
⑩	ヤッコソウ自生地	〃
⑪	ヤクタネゴウ	〃
⑫	塩釜神社の石臼 (歴史民俗資料館保管)	〃
⑬	牧のコテ (歴史民俗資料館保管)	〃
⑭	牛之原牧の証文 (牧本氏保管)	〃
⑮	中之町牧の証文	〃
⑯	阿嶽の洞穴	〃
⑰	宮吉良の石塔	〃
⑱	上妻氏の石塔	〃
⑲	日良法印御墓所	〃
⑳	日良法印墓跡	〃
㉑	日蓮筆曼陀羅 (日輪寺保管)	〃
㉒	日隆筆曼陀羅 (日輪寺保管)	〃
㉓	平鍋の化石	〃
㉔	苦浜貝塚	〃
㉕	戸畑の煙突	〃
㉖	松濤庵跡	〃
㉗	南界小釣鐘堂跡及び旧正門	〃
㉘	下田集落「アツチャメ踊り」	〃
㉙	大踊り「北之町」・「月日かけ」	〃

お問い合わせ 30 大平橋 〃
〒891-3604
鹿児島県熊毛郡中種子町野間 5173 番地 2
中種子町立歴史民俗資料館
TEL(0997) 27-2233
FAX(0997) 27-2226

1. 古市家住宅 	ふるいちけじゅうたく 弘化3年(1846)建立とされる古市家住宅は、種子島に現存する最古の類に属する住宅。周囲の環境も良く、歴史的価値が高いとして平成6年に国の重要文化財に指定された。 平成13年に保存修復工事を行い、一般公開している。 見学は午前9時～午後4時30分まで。 入館無料。 国指定重要文化財(建造物) H6.7.12	11. ヤクタネゴヨウ 	やくたねごよう 別名アマミゴヨウ。種子島及び屋久島に自生する常緑喬木。生長が早く、根元と木口がほとんど同じ大きさである。軟らかくて加工しやすいので丸木舟の用材として使われてきた。 増田郡原の濱田アツシ方に残るヤクタネゴヨウは、周り3m、高さ20m、樹齢140年以上の町内随一の大木である。 町指定文化財 S55.3.26	21. 日蓮筆曼陀羅 	にちれんひつまんだら 日蓮聖人55歳の時、曾谷教信に授与したと書いてある。教信は千葉県市川市曾谷の郷士で、日蓮の信者。日輪寺にあるヌイ女の碑には「この曼陀羅はヌイ女が寄贈した」とある。また、種子島家譜には「ヌイ女は大阪の住人で安政の頃、父と共に浜津脇の沖を漂流中救助された」とあり、その後、野間村庄屋の石堂家に保護され、その折に寄贈したと言われている。 町指定文化財 S59.3.5
2. 種子島阿嶽川のマングローブ林 	たねがしまあだけがわのまんぐろーぶりん 熊野海岸の南側を流れる阿嶽川の両岸に見られるマングローブ林で、メヒルギのみの群落である。 河川沿いでは形態的に樹高が低く、大きく枝を広げた独特の樹形が多く見られる。 マングローブ林の自然分布の北限域として貴重とされ、国の天然記念物に指定された。 国指定天然記念物 H27.10.7	12. 塩釜神社の石臼 	しおがまじんしゃのいしうす 小塩屋の塩戸の人々は昔、四国の宇和島の沖の小島から製塩のため連れてこられた。10代島主幡時が小塩屋の人々のために、故郷の島から塩釜の神様を迎えたのが小塩屋の塩釜神社である。犬城の岩屋口で亡くなられた幡時公の形見として、馬の鞍、短刀、石臼をもらい受けて塩釜神社の御神物として祀っていた。 石臼は、現在、歴史民俗資料館に保存している。 町指定文化財 S56.2.8	22. 日隆筆曼陀羅 	にちりゅうひつまんだら 寛正2年(1461年)5月上旬書。日隆聖人77歳の時。日隆聖人は亨徳年間(1454年頃)尼崎本興寺の大学僧で、日良聖人の師である。 町指定文化財 S59.3.5
3. 町山崎の源太郎踊り 	まっちゃまさきのげんだらおどり 源太郎踊は種子島全島に分布する踊りで、その発祥地は大阪住吉とも言われており、男女共演の念仏踊りとして踊られてきた。 踊りは7節で各節は隊形、手足さばき、歌調テンポの変化に富んだ優雅な踊りである。 県指定無形民俗文化財 S39.6.5	13. 牧のコテ 	まきのこて 牧とは今でいう牧場で、牛馬の放牧場のことである。種子島で製塩が始まる1350年頃から、明治の中頃までの約550年間、種子島村落の基礎をなしていた。牧は数人が共同で島主の許可を得て馬牧、牛牧、塩屋牧を所有した。所有者は毎年1回、牛馬を一定の場所に集めて、牧の祭の後にメスマの尻にコテで焼印をした。このことからカネヤキといわれている。 町指定文化財 S56.2.8	23. 平鍋の化石 	ひらなべのかせき 納官平鍋の化石公園は、平成3年の農道整備事業によって、旧道山中に散乱していた岩石を集めて公園にしたものである。化石を含んだ岩塊には2枚貝や巻貝が含まれている。この化石を含む地層は、熊毛層群(古第3紀)、茅永層群(新第3紀)を覆う増田層で、今から約100万年前の海成層と考えられている。 町指定文化財 S59.3.26
4. 立切遺跡 	たちきりいせき 約35,000年前の火山灰層の上下に、後期旧石器時代初頭の文化層が良好な状態で残されている。遺跡からは、落とし穴とみられる土坑のほか、生活を示す炉跡(焼土跡)や礫群、植物加工具や伐採具などの石器が広い範囲で見つかった。また、植物遺体の分析から照葉樹林の存在も推定されている。 県指定史跡 H27.4.17	14. 牛之原牧の証文 	うしのばるまきのしょうもん 証文 牛之原 小牧老野 増田村仁兵衛 善五兵衛 曾右衛門 伴右衛門～中略～右、己来塩屋牧模合二而候処 比範塩屋より依頼之訳、方角付之通 相改候、向後 致異論聞敷者也 文政四辛己正月 御殿 増田村の農民が、字牛之原に保有していた塩屋牧の領域を設定して、改めて、種子島家から認可された証文で、文政4年(1821年)のものである。 町指定文化財 S56.2.8	24. 苦浜貝塚 	くばまいづか 苦浜貝塚は、阿高磯と屋久津との境界を東シナ海へ流入する苦浜川下流の河床にある貝塚で、1950年(昭和25年)に盛園尚孝氏により調査が行われた。貝塚は「東西約1.5m、南北12mの細長い形で水面に露出し、流水による浸食のため混土貝層の露呈もみられた」と報告され、出土遺物は苦浜式土器(盛園氏が命名)のほか、貝類、獣骨、魚骨などである。 町指定文化財 S59.3.26
5. 千草原遺跡 	ちぐさばりいせき 昭和42年県営ほ場整備事業中に高校生が発見し、翌年2月に盛園尚孝氏が責任者となって調査が実施された。耕作によってかく乱された表層は弥生時代後期の包含層で、磨製石斧・石鎌や土製の紡錘車が発見された。下層の火山灰層下から塞(せ)の神式・轟(とどろき)B式・曾畑(そばた)式土器片や打製石鎌も出土した。 町指定文化財 S55.3.26	15. 中之町牧の証文 	なかんちょうまきのしょうもん 増田中之町の百姓、周之丞の長女で周袈婆女と呼ばれていた女性が、23代島主久道に、村の窮状を訴えて、牛之原牧の分割を願い出たことが伝えられている。この証文は、その伝承を立証する史料である。 文政12年(1829年) 町指定文化財 S56.2.8	25. 戸畑の煙突 	とばたのえんとつ 九州海軍航空隊種子島基地跡に唯一残る烹炊所と、風呂場の煙突といわれている。終戦前の空襲で地上施設はほとんど破壊されたが、この煙突だけが残った。戦後70年を過ぎた現在、高さ10mのレンガ造りの煙突は、まだまだ堅固で、どっしりと立っている。 町指定文化財 H18.1.26
6. 矢止石 	やどめいし 坂井村の領主・日高左京之進は正法寺(律宗)の住職をしていたが、日良聖人がすぐ前に浄光寺(法華宗)を建立したので、この両寺は対立。ある日、左京之進は、正法寺より浄光寺の日良聖人めかけて矢を放ったが、その矢は、聖人には一本も当たらず、すべてこの石に当たったばかり。左京之進は、聖人に許しを乞うて法華宗に皈依したという。 町指定文化財 S55.3.26	16. 阿嶽の洞穴 	あだけのどうけつ 昭和33年4月、盛園尚孝氏らにより、9日間にわたって発掘された。約30種の貝、獣骨、魚骨、石器類や弥生式の土器等が出土した。ここは、海浜にあり後背地は阿嶽川流域の水田地帯に続いていることから、縄文期のような採取生活をも営む季節的な住居として利用されたものと考えられている。 町指定文化財 S56.2.8	26. 松濤庵跡 	しょうとうあんあと 熊野神社を厚く尊信した松寿院(種子島家23代久道の妻)は天保9年(1838年)熊野山に熊野権現護国寺を建立し、松濤庵と名付けた。僧をおき、朝夕読経させたといわれている。松濤庵は上段と下段に建物があったとされ、現在は三方に積まれた石垣、建物の基礎や瓦、また階段周辺には踏み石などが残っている。 町指定文化財 H22.5.18
7. 塩釜跡 	しおがまあと この窯跡は、直径3.5m、深さ1.2mの円形に堀り下げられ、南側には炊き口兼用の出入口がある。この窯の上に塩釜を作って塩を炊いた。塩釜は大事に扱わないと水がもれたので、塩屋の人たちは塩釜の神を祭り、釜が壊れないように祈りながら塩炊きに励んだ。 町指定文化財 S55.3.26	17. 宮吉良の石塔 	みやきらのせきとう かつて納官村の中心地であった宮吉良に目連寺(通称、木場ん寺)という法華宗の寺があった。ここには、大きな自然石の石塔が2基、角柱の石塔4基が建っており、吉良伯耆寺氏成墓、元祖野間入道隆信、氏成妻犀川氏墓である。碑文には、今から400年ほど前に活躍した石堂氏3兄弟のことが記してある。 町指定文化財 S56.2.8	27. 南界小釣鐘堂跡及び旧正門 	なんかいしょうつりがねどうあとおよびきゅうせいもん 旧正門は、明治32年の校舎新築落成の際に新設。昭和32年の新校門竣工まで使われた。釣鐘堂跡は、旧正門の隣に位置する。設置されていた釣鐘は、昭和3年、南界区民5ヶ年の積み立て800円を投じて京都から購入。直径2尺2寸、重量85貫の大梵鐘で、朝昼夕の3回、その音色を響かせたが、太平洋戦争中の昭和18年、国策により徴発され、現在は基礎だけが残っている。 町指定文化財 H22.5.18
8. 野間焼窯跡 	のまやきかまあと 4間の登り窯で、朝鮮式の分炎式である。窯元だった中馬友吉氏によると「明治40年頃、父に連れられて、伊集院から石堂氏をたよってきた。焼物は、つば・花鉢等日用雑器で、依頼によって土管なども作った。釉薬も近くにある粘土に木灰をまぜて使用した。その後、経営がいきづまり昭和20年頃ついに窯を閉じてしまった」という。 町指定文化財 S55.3.26	18. 上妻氏の石塔 	こうづましのせきとう 増田中之町の茶屋峯に3基の石塔が建っている。上妻阿波守家真の石塔である。碑文には、『上妻氏は種子島氏入島以前から種子島にいて、種子島の地頭で鎌倉にいた大浦口氏の代官として政務をとっていた。種子島氏が島主として入島した時、その家田となって、これまで通り、種子島にとどまることになった。種子島氏はこの時、増田の田50町歩を家真に与えた。後、上妻氏は古房の峯下の現在「城之鼻」と呼ばれるところに山城を築いた。さらに古房の御山に神を祭り、それをあつく信仰した」とある。 町指定文化財 S56.2.8	28. 下田集落「アッチャメ踊り」 	しもだしゅうらく「あっちゃめおどり」 下田嘉太郎節ともいう。嘉太郎は、野間下田の出身で本職は馬の鞍作りであった。親の代から舟により、鹿児島や大阪へ商いに行った。その際に唄踊りを持ち帰り、今のような振りがついたと考えられる。昔から、性格や見た目が良かったり、一風変わった人などを唄にする風習があり、嘉太郎自身も唄の主人公になったと思われる。 町指定文化財 H22.5.18
9. 坂井神社の大ソテツ 	さかいじんしゃのおおそてつ 境内に植えられている雌株のソテツは樹高7m、樹長10m、根周りは2mあり、樹齢は700年以上とも言われ、高さでは、日本一の大ソテツとされている。 町指定文化財 S55.3.26	19. 日良法印御墓所 	にちりょうほういんごぼしょ 日良聖人は、永享3年(1431年)淡路島に生まれ、25歳の頃、尼崎の本興寺で日隆聖人の勸学院に学ぶ。ここで日典聖人の教えを受け、種子島のことを知る。日典が種子島で法難殉死した後、寛正6年に来島し、布教につとめた。昭和55年に再興された浄光寺田島坊に、昭和57年5月15日、御真骨を納め、法印御墓所とした。 町指定文化財 S58.10.1	29. 大踊り「北之町」・「月日かけ」 	おおおどり「きたんちょう」・「つきひかけ」 「北之町」「月日かけ」は「しむればなる」「佐渡と越後」とあわせて4庭が伝わったとされる大踊りで、種子島全島に分布する。発祥地は、大阪堺とも言われており、西之表で伝承されていたものを牧川集落が受け継ぎ、その後、旧伊原集落に伝わったとされる。現在は、昭和59年に発足した三浜郷土芸能保存会が伝承している。 町指定文化財 H25.6.10
10. ヤッコソウ自生地 	やっこそうせいち 熊野権現山のヤッコソウは、昭和42年頃に種子島ではじめて発見された。ヤッコソウはイタジイを宿主とし、葉緑素をまったくもたない寄生植物である。近年開発のため、消滅しつつある中で、ここは熊野神社の神域にあるため安全に保護されている。 町指定文化財 S55.3.26	20. 日良法印墓地跡 	にちりょうほういんぼちあと 日良聖人は、種子・屋久・永良部3島の法華改宗の大偉業をなした。その後、明応4年(1495年)、法難の地、坂井浄光寺に、逆修の墓石を自ら刻して入寂した。昭和57年、古市秀一氏によって発掘され、浄光寺田島坊に御真骨を納めた。 町指定文化財 S58.10.1	中種子町立歴史民俗資料館 	S53.10.30竣工 中種子町の考古資料や民俗文化に関する展示を目的とした資料館です。暮らしに欠かせない民俗資料で大正・昭和時代の民家を再現したコーナーやサトウキビの圧搾機、種子島で最後に製作された丸木舟など「農業・漁業・林業」に関する道具の展示。そのほか、立切遺跡などの埋蔵文化財の遺物や牧に関する資料なども展示している。